

令和7年度 京都府立洛水高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>すべての生徒が輝ける学校 ～ 一人一人の可能性を最大限に引き出す学校 ～</p> <p>◆校是「自主・自律・挑戦」 ◆教育目標</p> <p>1 「自主・自律・挑戦」の校是に基づく指導を行い、自らを律し、学び、考え、行動できる人間を育成する。</p> <p>2 キャリア教育を中心として、学習活動、学校行事、部活動等を通して人間性豊かで、社会に貢献する高い志を持った人間を育成する。</p> <p>3 個々の生徒の資質、能力を伸ばす手立てを工夫し、学力を伸長することで、希望進路を実現させる。</p> <p>4 学校の指導方針、内容を明確にし、地域社会に信頼される、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>◆スクール・ミッション 一人ひとりの進路希望に対応した教育活動を実践する普通科を設置する高校として、課題発見能力と確かな学力を身に付けることによって、自らの意思で自らを高め、新しいことに挑戦する人材を育成する。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) <u>1年生に加え、2年生においてもセカンドラーニング(放課後実施の国・数・英の学び直し)を実施し、生徒に寄り添いながら学習支援を行い、基礎学力等の定着に努めた。</u></p> <p>(2) 支援が必要な生徒に対し、出身中学校、児童相談所、地域支援センター及びスーパーサポートセンター等の関係機関と連携し、生徒が抱える困難や課題に向き合い、生徒の成長を支える支援を粘り強く実践することができた。</p> <p>(3) 洛水式キャリア教育を中心に、地域と連携・協働した学びを推進することにより、生徒に将来展望を持たせ、地元企業への就職に繋げることができた。</p> <p>(4) <u>1、2学期当初に特別時間割を組み、担任との面談期間を設定し、生徒がスムーズに通常の学校生活に適應できるよう支援できた。</u></p> <p>(5) <u>2学期を9月1日始まりとし、学校祭の日程を10月下旬から11月上旬の涼しい時期に変更して実施したため生徒が準備期間から意欲的に取り組み、出し物等の完成度が高まった。</u></p> <p>(6) 通学時の巡回指導等を計画的に実施し、自転車乗車マナー等の向上に繋げることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) <u>自殺、いじめ重大事態及び薬物乱用等の未然防止に努める必要がある。</u></p> <p>(2) 生徒の現状を踏まえた授業や評価、支援等の在り方について研究し、基礎学力の定着等を図る必要がある。</p> <p>(3) <u>あらゆる教育活動を通して、生徒が「一人の人間として大切にされている」という自己存在感を実感し、認められたという「自己有用感」を育む工夫が必要である。</u></p>	<p>1 危機管理の徹底 危機管理の徹底により、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切にし、健康で安全な生活を送ることができる意識・態度・実践的行動力を育成する。(自殺、いじめ、薬物乱用、教育活動中の事故、登下校時の交通事故等の防止)</p> <p>2 人権教育の推進 多様性を尊重する人権教育を推進し、差別や偏見を許さない意識・態度・実践的行動力を育成する。</p> <p>3 希望進路の実現に向けた基礎学力の定着 <u>確かな学力を身に付けさせるため、生徒の現状を踏まえた新たな教育課程を編成するとともに、指導と評価の一体化について研究・実践し、一人ひとりの希望進路の実現を図る。</u></p> <p>4 生徒支援の充実</p> <p>(1) <u>「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」という生徒指導実践上の4つ視点に留意し、教科指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進める。</u></p> <p>(2) 支援が必要な生徒に対し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー、関係機関等と連携し、生徒が抱える困難や課題に向き合い、生徒の成長と発達を組織的に支援する。</p> <p>5 洛水式キャリア教育の推進 自己理解・他者理解を深めるとともに、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力を育成することを通してキャリア発達を促す。</p> <p>6 特別活動、部活動の充実 特別活動、部活動を充実させ、生徒の自己有用感を高めるとともに、学校生活の充実や学校の活性化を図る。</p> <p>7 広報活動の充実 広報活動を充実させ、地域や中学生及びその保護者等へ、洛水高校の魅力を伝える。</p>

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	基礎学力の充実	基礎学力向上を目指し、ICT機器のさらなる利活用を進める。授業規律の確保、欠席者・遅刻者の減少に努めるとともに成績不振者に対する指導の充実を図る。	学年部・各教科との連携により、授業規律の確保に取り組む。またICT機器の有効な活用機会を増やし、生徒が主体的に学習に取り組める環境を整え基礎学力の向上を図る。	3	4	学年部及び各教科と連携し、授業規律の確保は達成できている。生徒が主体的に学習に取り組めるようさらなる授業改善に取り組む。遅刻者や欠席者に対しては、学校全体で減少するよう取り組んでいる。欠席超過者に対しても学年部と連携し、個に応じた対応を継続する。 日々のセカンドラーニングや定期考査前補習を実施し、基礎学力の定着に向けて各教科の支援を充実することができた。来年度からは教育課程に位置づけた学び直し(学びの道しるべ)を実施し、基礎学力の向上に取り組む。 令和8年度入学生の教育課程を編成した。来年度の実施に向けて各教科と連携していく。 「シラバス」を活用し、授業内容と評価について生徒と共通認識を図れた。指導と評価の一体化については今後も各教科で検討が必要。 生徒の実態に応じた適切な内容で人権教育を実施できた。今後も人権意識の向上に向けて内容を精査し実施する。 読書指導や図書委員の活用により、図書館の利用を推進できた。
			学年部や生徒指導部と連携し、朝の遅刻が減少するように指導を行う。授業の遅刻・欠課過多者について学年部・教科担当者との連絡を密に行い、欠席超過による単位不認定とならないよう指導を行う。	4		
			教科における基礎補充の実施や担任への成績資料の提供等を通じて成績不振者への指導を行うとともに「セカンドラーニング(学び直し)」についても学年部・教科等と連携して実施する。	4		
	教育課程	特色ある学校づくりに向けて、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の適切な実施と授業改善に努める。	各教科と連携し、3年間を見通した授業の充実を図る。分掌・教科等と連携して授業の状況を適切に振り返り、改善点の検証を行う。	3	3	
		年間授業計画に基づいた授業の実施と指導と評価の改善を行う。	年度当初の授業で「シラバス」を生徒に配布し、授業内容や評価の観点等を伝える。指導方法や評価方法についての検討を継続し、指導と評価の一体化を進める。	3		
	人権教育	教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にしたい教育の推進を図る。	人権教育について工夫・改善に努めるとともに、3年間を見通した人権学習を計画して実施する。	4	4	
	図書館運営	図書館教育を通して生徒の教養の充実を図る。	図書館利用指導・読書指導の充実を図る。そのために、教科との連携、生徒の委員会活動・部活動との催事共催等を推進する。	4	4	
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	身だしなみ指導、授業規律への指導等を全教職員で組織的に行う。生徒の変化に気づき、寄り添いや対話を大切にし、保護者等との連携を図り、生徒の問題行動の防止に務める。	3	3	登校時に多くの教員が挨拶とともに身だしなみの声掛けを行い、基本的な生活習慣の定着を図った。授業規律の確立を促し、生徒が授業を大切にしようとする意識の向上につなげた。交通安全指導として京都府安心・安全まちづくり推進課、警察、PTA、地域と協力し、交通安全教室や校外での自転車指導を行った。これにより、自転車事故などの場面で適切に行動できる生徒が増加した。 生徒会を中心に文化祭や体育祭の新たな企画・運営を行い、行事を成功に導いた。 朝の交通安全指導や校外清掃活動にも多くの生徒が参加し、学校の活性化に貢献した。
		交通安全指導の強化を行う。	警察、PTA等と連携した交通安全教室及び登校指導等の実施により、交通事故の防止と自転車乗車マナーの向上を図る。また事故発生時に適切な対応ができるよう指導を行う。	4		
	特別活動	自主・自律の伸長を図る。	生徒会活動及び部活動の活性化を図る。学校祭を始めた特別活動等において、生徒の自発的な計画・運営により活性化を図る。また地域でのボランティア活動を積極的に行う。	3	3	
進路指導部	進路実現	希望進路100%の実現を目指し、支援の充実を図る。	進路ガイダンスの事後学習充実に向けての資料を作成する。担任から生徒へ配布することで、進路選択の意識を高める。	4	4	
		学習状況の点検として模擬試験等を活用する。	多様な入試や就職試験に対応できるように、進学補習、就職ガイダンスなどを開講し、希望進路実現のための支援を計画的に行う。	4		
	環境整備	情報収集のための環境を整える。	模擬試験に対する事前準備についての案内を計画的に作成する。	3	3	
			生徒が進路先の情報が得やすいようにするために、自習室・進路指導部横の資料室を整備する。	3	3	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健部	健康安全教育的	健康診断の教育的活用と事後指導の徹底を図る。	生徒の健康状態を把握すると同時に、生徒自身に自らの健康状態を健康相談や季節に応じた保健室だよりなどで理解させ、基本的な生活習慣の確立を促す。	3	3	健康診断の結果をふまえ、学校生活において配慮が必要な生徒を把握し、適切な対応に努めた。また、健康相談などで生徒自身に自らの健康状態を理解させ、基本的な生活習慣の確立や感染症予防の啓発を行った。保健室利用状況を共有し、保健指導に活用した。 生徒の特性に合わせた支援方法を学年部の先生方と話し合い、スクールカウンセラーの利用を促した。 外部の関係機関とも十分に連携が図れた。教職員研修についても、基本的な知識を中心に支援が必要な生徒の理解と支援方法についての学びを深めることができた。 来年度の研修は今年度の研修をふまえて発展した研修を考える必要がある。今後も生徒への効果的な支援方法を考えていく必要がある。 ゴミステーションでのゴミ分別の様子の動画を全校生徒が視聴し、ゴミの分別意識を生徒と教職員で高めることができた。
		生徒の心身の健康保持と安全の確保に努める。	保健委員会において保健だより等の作成を行う。また、登下校時の交通事故等の防止を含め、自ら健康・安全管理ができる姿勢を養うとともに自主的な活動を支援する。 教育相談・特別支援教育の充実と支援が必要な生徒に対し、スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーとの連携を深める。また、必要に応じて外部の支援機関にも繋ぎ、生徒の成長と発達を支える働きかけを行う。	3	3	
		校内美化の活動を推進し、環境に対する生徒の意識向上を図る。	ゴミの分別意識を高めるとともに、日々の清掃活動や環境委員会の活動を充実させ、清潔で落ち着いた学習環境を作る。	3	3	
総務広報部	洛水式キャリア教育の推進	洛水式キャリア教育を推進し、コミュニケーション能力の向上や希望進路先を考える機会を作り、社会で生きる力を育成する。	1年生では、自他の関わり方を学び、探究学習を通して自ら考え、自分の意見をまとめ、発信する力を育成し、洛水式キャリア教育の企画推進に努める。 2年生の総合的な探究の時間において、総務広報部の担当者と学年等と連携を密に取り、プロフェッショナルインタビューやインターンシップを中心とした洛水式キャリア教育の企画推進に努める。	4	4	洛水式キャリア教育は各学年とも総合的な探究の時間担当者と学年が連携を密にとり、実施することができた。来年度は洛水式キャリア教育と進路指導のつながりをより意識して取り組んでいきたい。 ホームページの作成において、担当者から積極的に声かけをして記事のアップロード増加に努め、本校の活動内容を発信することができた。来年度はホームページアップロードの機会を増やす仕組みを考えていきたい。 広報活動については学校案内のデザインの刷新、学校紹介動画での生徒の活動動画を増やすなど、本校の魅力を効果的に発信することができた。来年度、学校説明会において部活動体験の機会を増やし広報活動の強化を図っていきたい。 端末のバージョンアップに伴い、新しい端末の運用方法やトラブル対応を事前に予測し、円滑な運用を行っていききたい。 PTA活動に理解をいただき、各行事で連携を図ることができた。
		他に無い本校の魅力を中心に発信し、地域社会に信頼される開かれた学校づくりに努める。	ホームページやさくら連絡網の活用を増やし、学校行事、部活動、生徒会活動、HR活動など本校の魅力を保護者や地域社会に発信する。 学校説明会、部活動体験、個別相談会や中学校訪問、出前授業等を通して本校の魅力・特色を中学生、保護者に発信する。	4	4	
	ICTの推進	ICT機器、Microsoft365アカウント、生徒学習用端末の保守・管理、ICT機材の整備	学習用端末の整備、生徒と教職員が安心して使えるICT環境の充実を図る。入学から卒業までの一連の管理運用について生徒が安心して使用できるようにサポートを行う。	4	4	
	PTAとの連携	組織の活性化を図り、学校と家庭との連携を図る。	日頃からPTA役員との連携を図り、各種行事等を通して、PTA活動の発展に寄与する。	4	4	
	第一学年部	学習・進路指導	授業を大事にする。学び直しに取り組ませ、課題や提出物を確実に出すことで確かな学力を身につけさせる。	教科担当者と連携し、学力向上に積極的に取り組む。特に基礎学力を定着させるために、学習意欲が低い生徒に個別に面談を行い、学び直しに参加するように促し、セカンドラーニングを充実させる。また、積極的に授業を公開し、教員が相互に指摘し合い、授業の改善に努める。	3	
基本的な生活習慣を確立させ、進級・卒業に向けての基礎を確立する。集団を率いることのできる生徒を育成する。			「遅刻届」を活用し、欠席や遅刻の減少に努める。生徒と積極的にコミュニケーションを取り、生徒の生活状況の把握に努め、臨機応変で柔軟な指導を心がけるとともに、基本的な生活習慣の確立を目指す。特に生徒の良い点に目を向けるようにし、生徒との信頼関係を構築することで、生徒に伴走し、支援する意識で接する。特別活動などを通して、学級のリーダーになりうる生徒を育成し、主体的に会議を開かせる中で、集団を率いる意識を持たせる。	3	3	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
第二学年部	基本的な生活習慣の確立	遅刻欠席、授業の中座を減らす。時間を守る意識を定着させる。身の回りの環境を整える。授業に集中し、安心して学習に臨める環境をつくる。あいさつをはじめとするコミュニケーションを大事にする。自他共に大切に、個人を尊重する気持ちを持つ。	前年度から引き続き、遅刻届を用いて遅刻を減らす声掛けと日々のコミュニケーションを図る。クリアファイルを一人ずつ配布し、プリント類を整えさせる。机の中や上、ロッカーの中を定期的に整理整頓させる。教員から率先してあいさつを行う。特定の生徒に対する意識した声掛けではなく、全体に声をかける意識を持ち、一人ひとりを尊重する姿勢を教員から発信する。研修旅行を通して、ルールやマナーを守る意識を高め、他者への思いやりを持たせる。	3	3	<p>時間を守ることについては、1時間目の遅刻が多く、時間を守らせることへの意識を高めることが不十分であった。身の回りの環境を整えることについては、皆が清掃に取り組む姿勢があり、学習環境を一定整えることができた。コミュニケーションについては、学年団の教員を中心に、教員と生徒が積極的にコミュニケーションを取ることで良好な関係を築けている。また、研修旅行では、日常では経験できないものに触れることや農漁村地域との人々との触れ合いを通じて、成長を感じられるものになった。学習に関する部分では、授業を前向きに受けることができた、という評価が授業アンケートから読み取ることができ、かつ、成績面でも昨年度と比較すると成績不振者は大きく減少させることができた。一方で、学習姿勢と成績の状況をより向上させるために、次年度に向けてはさらに改善できるようにしていきたい。</p>	
	学習指導 進路指導	授業を大事にする姿勢を身につける。学習習慣の定着。様々な学校行事を通して、自身の進路をより深く考える機会を持つ。	学習用端末の適切な使用方法についての講義を行い、ICTを活用して学習効果を上げ、学習への姿勢を前向きにしている。インターンシップを通して、働くことへの意識を持ち、社会に出る自覚を身につけさせる。	3	3		
第三学年部	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立を促し、自立した社会人となるための自覚を持たせる。	1年生から行っている遅刻・欠席指導を引き続き行う。また、挨拶の励行、提出期限を守らせる指導を継続的・段階的に行う。社会における時間厳守の重要性を理解し、習慣化させる。	3	3	<p>提出物の期限や、時間厳守の感覚など、何度も指導していくことで生徒の理解を促せた。面談の機会を多く設けることによって、生徒の現状把握に努めることができた。生徒の進路においても、進路指導部との連携、保護者との面談や相談を密にし、進路希望実現に貢献することができた。</p>	
	進路・学習指導	進路の実現に向けて計画的な学習に取り組ませ、自らの価値を高め学力の向上を図る。それぞれの適性に合った進路を選択し、主体的に進路実現に取り組む態度を育成する。	生徒の進路希望実現に向けて、進路指導部と連携しながら密に面談等を行う。 提出物の期限遵守・就職セミナー・面接指導・志望理由書や小論文指導・総合型選抜対策など、進路指導部と連携し生徒・保護者のニーズに応じた指導を行う。また、進学補習や学力補充等を行い、生徒の進路希望実現を図る。	4 3			3
事務部	施設・設備管理	学習環境の整備 設備・備品等の改善	安心・安全な学校づくりのため、学校施設管理職員・技術職員を中心に施設設備の点検を実施する。また、関係部署と連携し、最適な学習環境の整備を図る。	3	3	<p>施設・設備管理に関しては、定期的な点検を実施し、トラブル発生時には速やかに対応することができた。新規に多目的教室にエアコンを設置、特別教室棟女子トイレの洋式化、校内各所のLED化、職員室移転改修工事等校内施設の環境整備を改善することができた。しかしながら、経年劣化が進んでいるところもあるので、引き続き長期的な施設の保守管理を図りたい。修学支援関係では丁寧な対応を心がけ、申請忘れ等のないように様々な制度を周知することができた。予算については効果的に執行することができた。</p>	
	修学支援	安心した教育機会の保障のための 援護制度の周知	各種援護制度について周知方法の工夫をし、分かりやすく丁寧な対応を行うことにより、生徒・保護者の経済的不安を軽減する。	3 4			4
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	分掌・教科と連携し、限られた予算の中での効果的な予算執行に務める。 職員相互チェック・確認体制の定着化を図る。	4 3			3

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
国語科	教科指導	授業を大切にさせる取組	毎時間の授業に必要な教材を確実に準備させるとともに、授業外の予習・復習に取り組ませることができるような課題の設定に取り組む。	3	3	【成果】授業を受ける姿勢を整えさせることを意識し、必要な教材を準備させることを徹底した。 全学年・全科目を通じて語彙力を身につけさせるための小テストを継続的に実施した。 1・2年生のセカンドラーニングにおいては、普段の授業で困り感を抱える生徒の支援となるよう、様々な工夫をしながら基礎的な知識が定着するような活動をおこなった。 【課題】生徒が積極的に授業の予習・復習に取り組めるような課題の設定が十分ではなかった。 授業の中で様々な活動を行い、基礎的な語彙力を養うことができるようにしたが、満足できる結果ではなかった。以上の課題を踏まえて、来年度も教科内で改善をしていく。	
		語彙力を身に付けさせる取組	全学年を通じて語句の意味・漢字の小テストを継続的に実施し、基礎的な漢字を確実に身に付けさせる。さらに、1・2年生においてはセカンドラーニングでも基礎的な語彙力を養う。	4	4		
		主体的に学習に取り組ませる取組	国語を学ぶ意義を理解させ、授業の内外を問わず主体的に学習に取り組む態度を養う。	3	3		
地歴公民科	教科指導	社会全般の知識の定着	基礎的な知識や用語を身につけさせるために、小テストや復習を授業内で実施していく。ICT機器や写真資料などを活用して、視覚的にイメージしやすいような授業づくりを心がける。教科書の内容をしっかりと理解させることを心がけ、授業で扱う内容を精選する。	3	3	各教科担当者が授業内容を精選することで、生徒に学習させたい内容に集中する授業を展開することができた。パワーポイントでの授業や、ロイロノートでの課題の提出、視覚教材の導入等、様々な場面でICTを利用することができた。また、授業内で課題を設定し、それを評価対象とすることで、授業に対する集中力を保つことができた。	
		社会参画への意識の向上	授業を通じて、現代社会の諸問題について読み解く知識や視点を取得させる。そのために授業内で問いを設定し、自分の意見を考えさせる機会を設ける。社会参画の一步となる主権者教育を充実させる。	3	3		
		主体的に学習に取り組む力を養う	学習姿勢の定着を第一とし、授業時の態度や学習ルールが守れるように声かけを粘り強く継続していく。また、授業への出席を第一とし、授業での活動を評価に反映させる。	3	3		
数学科	教科指導	授業規律の確保と基礎学力の向上	授業時間ごとに目標設定を行い、集中して授業に取り組める工夫をする。	3	3	3	単元ごとの学習内容を精査し、1時間単位での目標設定を行い完結する授業展開を行っている。 学び直しを視野に入れ、中学校までの躰きに配慮しながら基礎学力の定着を図ってきた。 ICTを活用した課題配信や授業展開を行っているが、家庭学習の定着という点ではまだまだ不十分である。 1年生での習熟度別授業は一定の成果を上げていると思われるが、2・3年生ではクラス単位の授業となり個々のレベルにあわせた授業展開の工夫を図りたい。
		学び直しの学習を授業に取り入れ、年間を通して基礎学力の定着を目指す。ICTを活用してノートや学習課題などを提出させるとともに、家庭での学習が定着するよう指導する。	3				
		進路希望実現のための学力を育成	習熟度別授業において、講座ごとに学習する内容・進度などを工夫し、入試にも対応できる学力の向上を目指す。また、入試に数学が必要な生徒には、個別に対応することで希望進路実現を目指す。	3			
理科	教科指導	「学びに向かう力」を重視し、確かな学力の育成	学力の三要素の一つである「学びに向かう力」を重要視し、確かな学力を育成する。そのために、授業支援アプリを積極的に活用し、日々の学習のポートフォリオの作成やパフォーマンス課題など多様な評価を実現する。	4	4	3	授業支援アプリを積極的に活用し、学習のポートフォリオやパフォーマンス課題を実施した。その結果、生徒の学びを多様な視点から評価することができた。 授業内の学び直しの充実と放課後のセカンドラーニングについても今年度も実施することができた。
		学び直しの充実	高等学校への学びにスムーズに接続するために、授業内での学び直しや放課後のセカンドラーニングを設定する。	3	3		

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健体育科	教科指導	運動の楽しさを知り、仲間と協力して積極的に活動する態度を養い、運動能力とともに豊かな人間性の育成を目指す。	仲間と協力し合い授業に積極的に参加する意識を持たせることで、規律・協調性・責任感など社会で生きる力と主体的に取り組む力を育成する。達成度合いをフィードバックすることで、より意欲的に取り組む態度の向上を目指す。	3	3	3 課題や、次の活動を明確にし、主体的に取り組む力の育成に力を入れた。また、仲間と協力し安全に活動することができるようにルールを徹底し、達成度合いに応じた指導を行った。
		知識・理解を深めるとともに、課題学習を実践する。	健康に関する知識を身につけることで、自身の健康に対する理解を深める。フィールドワークや演習など、体験を通じて学ぶ機会を設けることで、様々な分野に興味を持つきっかけになるような授業を展開する。	3	3	
芸術科	教科指導	様々な表現・鑑賞活動を通して、多様な視点を身につけることで、自己や他者を理解しようとする心を育てる。	生徒の興味や関心に応じて、ICT機器などを有効活用し、幅広い内容の表現・鑑賞活動を取り扱う。芸術科の合同授業を行い、芸術の知識や技能、表現の幅を広げる。	3	3	3 【成果】芸術科内で合同授業や校外学習等を実施することができた。ICT機器を制作工程で取り組むことにより、幅広い活動に繋げることができた。 【課題】粘り強く取り組む姿勢が身につくことができる環境を意識していく。
		授業規律を守らせ、落ち着いて授業に臨める環境を整える。	授業に臨むマナーを守らせる。きめ細やかな指導を行い、授業環境を整える。	3	3	
英語科	教科指導	習慣の確立と基礎学力の定着	基本的な英語コミュニケーション能力に繋がる基礎的な内容の定着を図る。	3	3	3 全学年の授業でパフォーマンステストを実施し、生徒が英語でコミュニケーションを行う場面は多く用意できた。またその為の基礎知識の定着も行き、苦手な生徒も積極的に取り組んでいた。 考査前の補習、セカンドラーニングの参加を促し、参加した生徒への基礎学力の定着を行った。
		指導と評価を一体化させ、生徒が主体的に学習する姿勢を養う。	主体的に学習する姿勢を養うことを目標に、指導と評価を一体化を徹底し、中学既習事項の学び直しを軸に、様々な目的や場面、状況を提示し、授業に前向きに取り組む、主体的に学習する姿勢を養う。			
家庭科	教科指導	習慣の確立と基礎学力の定着	進路希望の実現、および卒業後の進路において必要な基礎学力・コミュニケーション能力の伸張を図る。またその定着を目指して授業および補習などを通じて学習する姿勢を育む。	2	2	3 授業では毎回ワークシートの課題提出を徹底した。2学期以降、タブレット端末を活用したことで効果がみられた。小テストの実施し、基礎学力の定着を図った。 実践的・体験的な活動は外部講師や実習を実施した。今後は、活動数を確保することで、自立した生活に向けた学習にしていくことが課題である。
		授業を大切に作る姿勢を育成する。	授業規律を確保する。 授業の理解度を確保するため、課題の提出を徹底する。基礎学力の定着を図るため、確認の小テストなどを行う。	3	3	
情報・商業科	教科指導	主体的に生活を創造する能力と課題を解決する力を身につけさせる。	時代の流れに即した内容を取り入れ、実生活に生かせるようにする。自己実現や自立に向けた課題解決力をつけるために、実践的・体験的な活動を取り入れて総合的に学習させる。	3	3	3 情報モラルの学習については、講義形式の学習に加え、インターネットを利用した調べ学習やプレゼンテーションソフトを利用したグループ発表を実施することができた。また、生徒同士の相互評価等をおこない学習意欲の向上につながった。 情報通信技術を用いコミュニケーション能力の向上を目指していき、将来の進路実現のため、各検定試験にも対応した実習を充実させ、将来の資格試験取得について意欲を高めることができた。 ネットワークを利用してタブレットとPCを使用したICT学習の展開を行うことができた。
		毎日の授業を大切に、時間を有効に使う態度を育成する。PCやタブレット等を利用しICT教育教材を利用できる能力を身につける。	ベル授業開始をおこない毎時間、課題・授業プリントの提出を徹底する。遅刻・欠課を減らす指導、欠課届提出の徹底を行う。 授業前自習を実施し、タブレットを使用したICT授業の可能性を探る。またスマートフォンの利用を模索する。	3	3	
情報・商業科	教科指導	ビジネス社会・ICT社会に参画するためのICT機器活用能力の育成を推進する。プログラミング的思考を身につける。	情報の理論的な理解、情報モラル育成を行う。 情報モラルを育成し、コンピュータ等を効果的に活用する能力の育成を行う。 個人、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高め、プレゼンテーション能力の向上を図る。	3	3	3
				3	3	
学校運営協議会による評価		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が日々の学習や行事、部活動を通して、充実感と達成感を得ることができている。今後も更に工夫改善を図ってもらいたい。 ○生徒の実態に対応した方策について、様々な工夫がされている。校内での検討会議を経て、来年度からの実施に備えて欲しい。 ○学校評価アンケートの否定率がやや高い項目について、学校は改善しようとしている。高い項目についても引き続き取り組まれることが期待される。 				
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりを大切に、日頃からきめ細やかな指導を継続して行う。支援が必要な生徒に対しては、関係機関と連携しながら教職員がチームとなり取組を更に進める。 ○「学びの道しるべ」について、学力や学習意欲の向上とともに、自己肯定感の高まりについて、様々な角度から見ていくことが必要である。 ○「洛水式キャリア教育」について、現状と課題を明確にされ、改革に取り組まれている。地域と連携した取組となるよう、探究の仕組みづくりについても注目している。 ○洛水生の良さを伸ばし、社会性を身に付けられるよう、基本的な指導を更に進め、社会人として必要な常識やマナーの向上を図る。 ○洛水高校の魅力について、更に議論を深めていく。 				